

小泉首相は8月15日に堂々と靖国神社参拝を!!

中国・韓国の圧力、それを利用する国内勢力に屈してはならない

いま日本国中でうるさいほどに騒がれている「首相の靖国神社参拝」の問題をどのように考えるべきでしょうか。

そこには、あえてこれを政治的に、そして国際的にセンセーショナルなものにしようとする、一部の人々の「策謀」がはつきり見えてきます。

そもそも、亡くなった方々の慰霊ということは、静かで目立たない精神的な行為です。どう考えても国外に持ち出して批判に晒すようなことではありません。それを中国・韓国に内通し、干渉を引き出す国賊たちが国内に、しかも外務省にまで居るのです。

政治的紛糾を意図した「たくらみ」

大東亜戦争での総力戦つまり玉砕、沖繩の激戦、原爆の災禍などは確かに悲惨なものです。それを想起させる「終戦記念日」としての八月十五日に対する国民の思いがあります。その一方で、靖国神社本来の意義や英霊に寄せる崇敬の思いもまた、はつきりと存在しています。

朝日新聞を始めとするマスコミや、平和団体を自称する一部の人はこの二つのイメージを意図的に重ね合わせることによって、わが国の歴史の連続性をゆがめようとしているようです。そこに導き出される三つ目のイメージは「軍事施設としての靖国神社」という見方です。それは、わが国の伝統と国民性をなはだしく歪曲することになります。

「軍事施設としての靖国神社」など無い

ペリー来航以来、西洋列強の脅威に立ち向かった幕末の志士を、その同志たちが自然な感情として慰霊したのが、靖国神社の起源であり、そこには「軍事施設」としての性格など、どこにも見出し出すことはできません。

ところが当時、世界では西洋文明の慢心から殺戮兵器の乱開発となり、第一次世界大戦以降の総力戦の時代を迎えます。わが国はそのような時代に急速な近代化を遂げました。白人に虐げられたアジアの中で、ひとり有色人種である日本が列強に伍して戦ったその結果として、大東亜戦争において想像を絶するような多数の英霊が散華することになりました。私たちが国民感情として「八月十五日」に大きな意義を抱くのは、その壮大な民族のドラマゆえではないでしょうか。

中国の「妄言」を啞う

靖国神社の御祭神はすべてが「国事殉難者」であり、いわゆる「A級戦犯」も当然ながら「国事殉難者」として扱われます。「A級戦犯」とは、戦勝国が自らのリンチ行為へ東京裁判を偽装するための呼称であり、この裁判については世界でも多くの識者が国際法上の不当性を指摘し、今やそれは定説となっています。まして東京裁判に全く関わっていない、まだ当時存在しなかった中共政権ごときに「A級戦犯」を云々する資格などありません。

わが国は今こそ事実関係を堂々と主張し、政治的戦略としての内政干渉を断固排除すべきです。そして外圧を利用して国民世論の分断を図る国内勢力や、私益追求を図るだけの企業を決して許してはなりません。

新風は、過去の再評価と反省を基に国の未来を考える政党です

維新政党・新風本部

ホームページ <http://www.shimpu.jpn.org/>
〒604-0912 京都市中京区二条通河原町東入
京都書店会館2F
TEL.075-256-1545 FAX.075-241-2193
〒104-0045 東京都中央区築地7-6-7
松田ビル301号
TEL.03-5565-2993 FAX.03-6226-3528